

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>		<p>町内会行事に参加(毎月行われている、すこやか倶楽部井戸ばたサロンへの参加、地域の店への買い物に利用者と共にでかけ生活していることを知っていただく。</p> <p>買い物の日は、歩行能力を見ながら徒歩・車の利用をしながら行っている</p>
2	<p>理念の共有と日々の取組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>		<p>身体能力の低下には、安全に動けるよう居室内の家具の検討により、筋力の回復が見られた。また自己能力の改善に見守りと言葉かけを重視している。家事(食事の支度・洗い物・掃除・シーツ交換)・買い物(近隣のお店に出かける)・体操(健康体操)・散歩等の参加を促している。</p>
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>		<p>戸外に出ることで、様子を見ていただいている。地域の方が音楽ボランティアに定期的に見えている。町内会行事にスタッフも参加して地域の方との会話を持つことで知っていただくよう努めている。</p> <p>音楽ボランティア(季節毎)、毎月の方は利用日の休みに伴いこられなくなった</p>
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>		<p>雪かき・ゴミ投げ・掃除・近所の公園での挨拶、バーベキューにお誘いなどの交流で、利用者さんを知っていただく機会を設けている特定の方の訪問はある</p> <p>継続</p>
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>		<p>町内会に参加、毎月あるすこやか倶楽部には参加するように人員配置をしている</p> <p>参加人数の増加に、ボランティア・家族さんの協力がほしい</p>
6	<p>事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>		<p>共用型のデイサービスとショートステイの開設で在宅介護の支援を行っている。当社の一般デイサービスを100メートルと近間のあり、地域の方との交流の日で認知症の理解を図っている</p> <p>共用デイ・ショートステイ・地域との交流会の継続</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	外部評価は毎年行っている。緊急対応のマニュアルの見直しと学習会による職員の周知がある		緊急対応のマニュアルの見直しと学習会による職員の周知
8 運営推進介護を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	地域の方・包括支援センターの方々の協力があり、グループホームの生活を理解していただいている。		運営推進会議の開催・・・2ヶ月に一回開催して、利用者さんの様子を伝えている
9 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	札幌は全区の管理者連絡会議での市との交流、区では区の保健福祉担当者と管理者連絡会議での交流をそれぞれ3回ずつ持っている。		札幌は全区の管理者連絡会議での市との交流、区では区の保健福祉担当者と管理者連絡会議での交流をそれぞれ3回ずつ持っている。
10 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	制度についての研修会に参加し知識の確認をしている。		現在3名の方が制度の利用をしている
11 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。	常に虐待・拘束・抑制については気配りしている。デイ入用の方にも入浴介助での身体観察、送迎時での様子の把握に努めている。家族介護の支援に、送迎を利用して、介護方法の説明や実施で本人の力を利用した介護方法を指導している。またデイ利用者の家族指導には、通所持に同行していただき、接し方を見ていただく機会を提供している。		常に虐待・拘束・抑制については気配りしている。デイ入用の方にも入浴介助での身体観察、送迎時での様子の把握に努めている。家族介護の支援に、送迎を利用して、介護方法の説明や実施で本人の力を利用した介護方法を指導している。必要を感じれば介護見学のお誘いをする。
4. 理念を実践するための体制			
12 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	行っている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族さんが見えたときは、お茶を出しながら職員との会話も持つ。また家族さんの気付きを伝えてもらえる言葉かけをしている。思いを表現することが困難な方には生活支援の中で職員が感じとる努力をしている		家族さんが見えたときは、お茶を出しながら職員との会話も持つ。また家族さんの気付きを伝えてもらえる言葉かけをしている。本人の何気ない言葉を受け止める。(いいねえ、私もほしいわ…など)
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	請求書送付時に様子を記入して送っている。来所されたときも面談で様子を伝えている。		請求書送付時に様子を記入して送っている。来所されたときも面談で様子を伝えている。
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	気づきを伝えてくださる家族さんはいる。		
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	時間内で記録が終わるように用紙の検討を行った		記録紙の検討を行いながら、記入の仕方についても検討している。
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	管理者がフリーでいる日を多くとり、対応できるようにしている。食事が時間に提供できるよう人員配置をしている。共用デイの開設で人員が多くなっているため、ケアの質を高める努力をしている		人員の配置を基準以上に置く
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	馴染みの関係になれるよう新入職員にはペアでの仕事の期間を設けている。離職は極力抑える努力はするが、本人のスキルアップの希望はやむを得ない。異動に関しては、移動先との交流の機会を作りなじみの関係の継続を図るよう指導している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>認知症介護実践者・リーダー・管理者研修終了し、事業所の基盤強化を図っている。</p>	<p>研修受講計画の作成</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>管理者会議での交流は持っている。今年度は相互交流は持たなかった</p>	<p>今年度は相互交流の機会を持つ</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>時間内に仕事が終了するよう記録の検討・休憩時間が確保出来るよう取り決めた</p>	
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>各種研修会参加の案内・参加への働きかけは掲示板を利用し行っている。</p>	
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>入居前や入居後の深いかわり度でスタッフ・入居者との良い関係作りを行っている。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>面談電話・ソーシャルワーカーとのゆっくり関わられるよう、対話等で入居後の不安の軽減に努めている。</p>	<p>面談時は他の業務から離れている</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	健康状態・体力の低下など本人・家族さんとの話し合いで一番良い方法や対策を考え実施している。		
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	本人の生活歴を見て、他利用者との関係を見ながら、考え、関わり、自然に馴染めるよう心がけている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	個々の能力・趣味・特技にあったケアをしながら一緒に楽しめて絵画を見られるよう心がけている。押し付けにならなかったか、満足していただけたかを反省し、次へつなげている。利用者さんの力を見て、共同して日々生活している。		家事への共同参加・介護への支援(椅子を押していただく等)
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	家族さんが来訪されたとき、なるべく話をさせていただいたり、行事に参加していただけるよう案内や声かけしている。当日家族さんの自主的参加があった。		
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	外泊時の様子を聞きながら、双方(本人・家族)が楽に時を過ごせる支援を確認している。		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている。	連絡をする・友人の家を訪問する。元の住所地を訪問して近所の方に合う		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	特性を配慮し良好な関係を維持できるよう環境作り(席の配置・日常生活・アクティビティ活動上での助け合い)		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	必要な方へは、様子の把握(本人家族以外も含める)をしている(退去された方への年賀状の連絡)		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ケアプランの確認。その人の立場に置き換えて考える支援		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	生活歴や趣味に応じて行事を企画。絵が好きな方には、芸術鑑賞に行くかなどしている		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	無理にお誘いするのではなく、本人の意向を尊重する。食事の時間でも、そのとき食欲がなければ様子を見えずらして食べていただいている		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	日々利用者の様子を把握してミーティングで適宜ケアの変更がある		

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	適宜変更があり、身体状況の低下についての変更は早い時期に家族さんへの連絡を行っている		
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やけあの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに生かしている。	申し送りや、日々の記録を職員間で共有し対応している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	デイサービス利用者のショートステイなど		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	当社のデイサービス事業所での、地域の方との交流の場の提供(週2回)の活動の実施と利用者の参加も行っている		
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	事業所内での連絡調整、必要時はタクシーの利用も検討している		
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議を通して包括支援センターとの連携は良い		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	地域のかかりつけ医がすでに定着している		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	2つの医療機関との関係があり、症状の変化による相談が受けれる体制にある		精神神経科の看護師や精神保健福祉士との連携がある。
45 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	常勤管理者が兼務している		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院になった方については治療計画に基づき家族さんや病院担当者との連携を図っていた。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	行っている。状態の悪化と、必要な医療・安全等を考慮したり、家族さんの協力等の支援等かかりつけ医師との連携で確認している。終末期ケアの検討会・勉強会の実施		終末期ケアの検討会・勉強会
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	ホームでの看取り1名。悪化による入院退去5名内4名死亡(持病の悪化)看取りの経験からケアの指針の作成		看取りケアの指針の見直し

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49 住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	本人の納得が重要である。分かりやすい提示と伝え方を工夫し、充分なかかわりを持つ。財産整理の支援を一つ一つ本人納得の上で行い思いを断ち切る関わりは、家に行くという言動は出なかった。今後症状の悪化でどんな表現になるか経過観察がいる。		
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
50 プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	その人らしい生活空間の尊重 きるもの・身につけるものは、その方の特性・嗜好を配慮している。記録類は居間に出しっぱなしにしないようにし所定の所に置いている。		
51 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	飲み物の選択を自分で決定できる支援(入浴後の飲み物・お茶の種類決定)		
52 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	本人の調子に合わせて、居室・居間への行き来が出来ている。利用者の何気ない言葉を大切に、希望を聞き対応するようにしている		言葉や行動に見られる思いを察知し動けるケアの力をつける
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、利用・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	化粧品の残量確認し買い物支援・美容師のボランティアの利用(カットは本人の希望で行っている)		
54 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしているか。	個々の役割が出来て習慣になっている。声をかけると快く引き受けてくださり、積極的に参加して下さる。(調理・盛り付け・配膳・片付け等)個々の力により本人の所に持っていくこともある。		特定の人にならないよう個々にあった力を引き出しながら声かけをしていく

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	買い物と一緒に行き好きなもの、食べたいを選んでもらったりしている		
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	介助が必要な方には、排泄チェック表をつけなるべくトイレで排泄できるよう誘導している。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	毎日入浴可能、気持ちよく入っていただけるような声かけをする。本人の希望で一日おきの方には清拭や足浴をして清潔の保持と感染防止を図っている。		全介助者の方が浴槽に入れる回数を増やしたい
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	生活のリズムが出来ている方は入浴後の休息が取れている。働きすぎ(手伝い)にならないよう配慮する		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	外出を好む方には買い物・散歩に誘っている。アクテピテイは、いろいろな材料を用意して、その人・その場にあった声かけをしながら楽しめるよう支援している。歌・ゲーム・編み物・縫い物・工作等		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	日常生活費程度を自己管理している方もいる。しまい忘れの方には何時も何所にしまうか職員で共有している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	買い物・散歩・あさひへと本人の希望に沿って声かけ実施		介助が必要な方への外出支援の機会を増やす。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが言ってみない普段はいけないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	美術館・お花見・紅葉見物・海(小樽)ドライブ・温泉旅行・百合が原公園の花見等年間行事計画に取り入れている。		本人家族の希望をなるべく取り入れて外出先を決めている
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	希望される方には都度事務室の電話から掛けている。混乱が大きい時に、納得を図るために家族さんとの会話を持っていただいている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	駐車スペースや玄関入り口前はロードヒーティングで安全に歩けるよう配慮している		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	転倒の危険防止に、動線にあわせて家具を配置したりじゅうたんの位置や固定の配慮をしている		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	玄関センサーの設置で日中は鍵をかけないでいる、ベランダからも自由に出入できるようにしているが、外への徘徊の危険のある方がいる時は庭の外回りの施錠はある		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	居室訪問時は必ずノックをし声をかけて、返答を待って入室している。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	ポットの湯は台所で一括管理しており、希望されればいつでも自分で使える状態にある。絨毯のへりも、つまづきの危険のある時は、テープを利用して危険防止を図っている		絨毯のへりの固定(必要な方のみ)
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	利用者の特性を職員で共有するよう変化のあることも申し送りがある。口腔ケアで食べ物が口の中に残らないようにしている。誤薬が起きないように記名と複数の眼で確認できるようにしている。		
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	応急手当は勉強会での確認はあったが最近は行っていない。事故発生のマニュアルがあるが定期的確認にはしていない		利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行う。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	定期的避難訓練はしている。歩行困難な方の避難介助用具の検討をしている(おんぶひも利用)		おんぶひもの作成
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている。	居室のしつらえの検討で心地よい空間の提供に努めている		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
73 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	申し送りを大切にし体調の変化には早めに対処している。風邪気味・便秘気味・心理面の不調等		
74 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	理解は不十分だが健康チェックやケアの中で異変にきずき報告をして、皆で検討する機会がある		申し送りで様子を報告、ミーティングでケアの方向の確認をしている
75 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	水分摂取・食品・体を動かすことの働きかけ		
76 口腔内の清潔保持 口の中の汚れやおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	言葉かけや、見守り・全介助などを行っている		
77 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	個々の食事摂取量の把握と、食べれる量や空腹になる時間を把握して個別に対応している。		
78 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	早期対処や、手洗い・うがいや消毒で蔓延の防止を図っている。食事の作り置きはしない。定期的なシーツ交換。		早期対処・手洗い・うがい食事の作り置きはしない。定期的なシーツ交換。
79 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	布巾・まな板は一日一回は殺菌消毒、ぬれた布巾は消毒洗濯している。食品は購入の古い分から使用するようにしている。冷凍保存の活用もしている。食事は毎食毎に調理したものを提供している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1) 居心地のよい環境づくり			
80 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	雪道対策(ロードヒーティング設置)・風除湿の手すり・階段の段差解消。スロープ設置で安全に出入り出来るようになっている		
81 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用にとって不快な音や光がないように配慮し、生活観や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節にあった絵や飾りの工夫・皆で作成したものを飾ったり、あさひ便りを貼付したり、利用者間の状態でお互いが、安全心地よく過ごせる空間の提供に努めている。		
82 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	自分の座る場所が確保されている。長椅子も譲り合って利用されている		
83 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いたれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時やその後本人の意向で想いの品物が追加された事がある		
84 換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	換気は集中換気システムで行われているが掃除の時や臭いのあるときは窓の開放もある。冷暖房は体調や時間などを考慮して住みやすいよう配慮している		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85 身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	手すりや代替になる物品の使用で安全安心に配慮して自立支援をしている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
86 わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	漢字による表示・本人の分かる言葉での表紙(トイレ・便所・トイレマーク)・表札・遠くからでも分かる自分だけのポイント(造花)		表示の位置を個別に見やすい位置にするように気をつけている
87 建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	ベランダでの日光浴や、ベランダから庭へ出て花を見たり、育てたり、畑の野菜やコンポストに生ゴミ投げが出来ている。雪かきや氷割をされる姿もある。		庭や畑での活動

. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる v ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある v 毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている v ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている v ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい v 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている v ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている v ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています v ほぼ全ての家族 家族の2 / 3くらい 家族の1 / 3くらい ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている ほぼ毎日のように v 数日に1回程度 たまに ほとんどない

. サービスの成果に関する項目		
	項目	取り組みの成果
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	大いに増えている v 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き生きと働けている	v ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が v 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が v 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)